



社会福祉法人 済生会支部

大分県 済生会 日田病院 広報誌「なでしこ」(巡回通信誌)

2023  
新年号  
vol.02



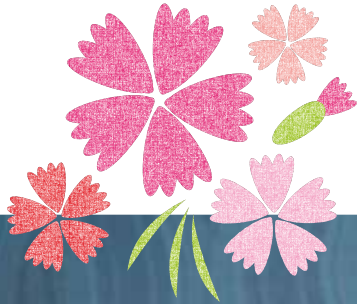
1~3月

# なでしこ

NADESHIKO

Oita Prefecture Saiseikai Hita Hospital

<http://saiseikai.hita.oita.jp>



特集：なでしこ interview

済生会日田病院 院長 林田 良三

インタビュー：石井 玲 (総務課)

住民パワーで誕生!!  
済生会日田病院が  
目指すもの



## INDEX

- 2 | コラム:新型コロナウイルス感染症第8波(新年ご挨拶)
- 3-5 | 特集:なでしこ interview / 済生会日田病院 院長 林田良三  
「住民パワーで誕生!済生会日田病院が目指すもの」
- 6 | トピックス:リレーフォーライフジャパンin大分  
やさしい日本語教室を開催
- 7 | 日田市内医療連携ネットワーク通信  
特定医療法人聖陵会 聖陵岩里病院  
大分県済生会日田病院 地域医療連携室
- 8 | インフォメーション:無料または低額診療のご案内  
令和4年度 下半期巡回診療事業計画のお知らせ

# 新型コロナウイルス感染症第8波

## 新年あけましておめでとうございます。

「おめでとうございます」とは申しましたが令和5年は私達、済生会日田病院にとっては医療逼迫という危機的な状況のなかで始まりました。新年にはふさわしくない話題で恐縮ですが、この難局を乗り切らないと本当におめでたい令和5年は迎えられないとの思いが強く、あえて新型コロナウイルス感染症の話をさせていただきます。

令和2年1月に日本で1例目の新型コロナウイルス感染症が報告されて以来、3年にも及ぶ新型コロナウイルス感染症との闘いに私達は未だ終止符を打てずにいます。昨年の11月から始まったオミクロン株による第8波は社会活動や経済活動の制限を行わないという国の方針もあって、日々、報道されているように瞬間に日本中に蔓延しています。オミクロン株は感染力が強く、手洗い、マスクなどの標準的感染防護策を行っていても容易に感染してしまいます。また、ワクチンの効果も限定的で重症化は防げても感染予防効果は満足できるものではありません。オミクロン株に対応するワクチンもでてきておりますが、接種率が未だに低いのが現状です。一方、従来株に比べて、オミクロン株の病原性は低く、感染しても無症状な人が多いと考えられています。ただし、基礎疾患をたくさんもっていたり免疫力が落ちた高齢者に感染すると容易に重症化してしまいます。さらにオミクロン株のなかでも感染力がより高く、免疫を回避する能力が高い亜型が次々にでてきて、第8波においてはそれら亜型への置き換わりが進んでいると予測されています。

結果、第8波には以下のような特徴があります。

- 入院患者さんの多くが80代、90代の高齢者であること
- 無症状の潜在的感染者を加えるとおそらく過去最多の感染者がいると考えられていること、全体の死亡率は低いものが高齢者を中心として亡くなる方の数は過去最多となっていること
- 多くの医療施設で職員の感染者が増え、マンパワー不足から新型コロナウイルス感染症だけでなく一般医療、特に救急患者の受け入れが困難となっていること
- 感染力の高さから多くの医療施設や介護施設でクラスターが発生し、医療機能麻痺や介護機能麻痺に陥る施設が全国的にも増えていること

そして以上の特徴は現在、済生会日田病院がこの年末から年始にかけて直面している問題でもあります。

3年にも及ぶ新型コロナウイルス感染症パンデミックによる経済活動や社会活動の制約は多くの貧困者、生活困窮者を生み出しています。今回、国が社会的、経済的活動の制約をなくし、ウイズコロナ政策に舵を切ったことは十分理解できます。しかし、その結果として感染者や亡くなる方が過去最多となっていることも事実です。そしてこれは医療者や介護者の責任ではありません。医療資源、介護資源は限られており、それでも現場では年末、年始の休日を返上して一人でも多くの命を救おうと身を挺して頑張っていることを一人でも多くのみなさんに知っていただければと思います。



大分県済生会日田病院  
久留米大学医学部 臨床教授

院長(医学博士) 林田 良三



## 特集 なでしこinterview

# 住民パワーで誕生!! 大分・日田病院が 目指すもの

済生会日田病院 院長 林田良三  
インタビュアー 石井 玲 (総務課)

※写真撮影時のみマスクを外しています。

済生会日田病院は1990年10月、大分県の二次医療圏で唯一、公的病院がなかった西部医療圏に20年の歳月を経て開院しました。それは「地域の中核を担う病院の設置を!」と望む住民の声に応えたものです。済生会は医療・福祉を通じて誰一人取り残さない社会を目指し、今年7月、拠点のない7県(青森・秋田・山梨・岐阜・徳島・高知・沖縄)にも支部・施設を開設しようとする、来年度から10年の長期事業方針をまとめました。院長の林田良三先生に地域に求められる病院のあるべき姿を伺いました。

## 地域に必要な情報は院内外に開示する!!

**石井** 私は今年度、済生記者に委嘱されました。改めて日田病院を調べていたら、当院は住民の要望で開院したことを知りました。

**林田** 日田玖珠広域市町村圏の振興計画で公的病院の設置を計画したのが1970年、そして、当院がオープンしたのはそれから20年後の90年です。

**石井** 開設まで20年も?

**林田** 済生会、地元医師会、日田市との協議が続く中で、85年12月に3000人を超える市民による済生会病院の早期実現を期待する決起集会が市民会館で開かれました。救急や小児医療を担う病院の開設を期待し、青年会議所や婦人会など住民パワーが源となって当院が開院しました。

**石井** そんなことがあったのですね。それだけに地域との関わりは重要ですね。

**林田** その通りです。開設までの20年は、紆余曲折がありましたが、地域医療構想などが進む昨今、地元医師会とは機能・役割をすみ分け、情報を共有して連携し、共に地域医療を守ろうと一致しています。

**石井** 市民との関係づくりはどのようにですか?

**林田** 当院の役割を知ってもらおうと「なでしこ」という住民向け広報誌を作成し、院内や、へき地巡回診療の際に配布しています。コロナと地域医療、SDGsと済生会など紹介してきましたが、もっと地域住民の方々に当院を知っていただくようリニューアルを予定しています。ほかにも毎年市民公開講座でがん診療や在宅医療を一緒に考えたり、市民健康福祉まつりに看護師・臨床検査技師・医療相談員などを派遣し、健康相談や健診を行なっています。

**石井** 商工会議所にも働きかけていますね。

**林田** 当院は地域がん診療拠点病院なので、働きながらがん治療を続ける患者さんのことを理解、支援していただけるよう商工会議所で講演しました。最近では市議会議員や記者クラブに、医師の働き方改革の目的や概要、地域医療への影響の話をしました。





徳川幕府の直轄地・天領として栄えた豆田町

**石井** 記者クラブですか？

**林田** 記者のみなさんに話をし、記事にしてもらうことで、住民に医師の働き方改革を知っていただけます。住民の理解と同意が医師の働き方改革達成のためには大切だと考えています。また、がんや人生の最期をどう過ごすか考えるアドバンス・ケア・プランニングの市民公開講座を開催、地元ケーブルテレビで放映してもらいました。

**石井** 林田先生も出演していましたね。

**林田** はい。市長や医師会会長と出演しました。市民と地域のための病院ですから、院長がどんな考えを持っているのか、日田病院はどんな病院なのかを、テレビを通じて広く知ってもらおうのも大切です。

## 住民の命だけでなく暮らしも守る

**石井** 林田先生が考える当院の特徴は？

**林田** 地域に不足する医療機能を積極的に、幅広く補填してきました。ここでは公的病院は当院だけですから、へき地医療拠点病院も災害拠点病院も地域医療支援病院も地域がん診療連携拠点病院も第二種感染症指定医療機関も一手に引き受けています。

**石井** 刑余者の支援もしていますね。

**林田** 県から受託している大分県地域生活定着支援センターで、高齢や障害のある刑余者に福祉的なサポートをしています。



巡回診療には研修医も参加

更生保護施設あけぼの寮へも、当院から社会福祉施設指導員2人を常駐で派遣していますが、これは更生保護施設と済生会の双方において全国唯一の取り組みです。いずれも大分市内での活動です。

**石井** あけぼの寮ではなにを？

**林田** 寮で暮らす人は、高齢や病気などで健康不安を抱える人が少なくありません。まずは健康保険証の取得をサポートします。保険証があれば医療が受けられ、身分証明書にもなります。これを手掛かりに、社会復帰を後押しします。これまでに約3000人を支援してきました。地域生活定着支援センターも、当初の5人から現在は8人体制に強化、刑務所に入る前から関わり始める「入口支援」を強化しています。

**石井** 医療も福祉も、日田でも大分市でも、本当にいろんな役割を担っているんですね。

**林田** この規模の病院としては身の丈以上のことをやっていると自負しています。しかし、医師も病院の運営資金も不足しています。非常勤医師の活用で何とか機能を維持していますが、なんとか踏ん張っているのが実情です。

**石井** 何か良い方法はないのでしょうか。

**林田** 補助金をいただける事業もありますが、それだけではとてもカバーしきれません。お金がないからやめますとはいえないので、公的資金の投入や外部の協力も不可欠です。そこで当院の公益性に理解をいただいている医師会長や地元の私立学校理事長に日田市長への公的病院等に対する特別交付税措置の陳情に同行してもらうなど、共同歩調で取り組んでいます。また、7月には日田市議会議員と当院の経営状況や今後の福祉活動についての意見交換会を行ない、当院への公的資金導入の妥当性について理解を得ました。

**石井** 味方がいるのは心強いですね。

**林田** そうですね。また、地域の先生方との連携を強化するためにID-Linkというインターネット上のデータリンクサービスを活用し、当院の診療情報をオープンにしています。現在は一方通行のシステムですが、ゆくゆくは、地域の医療機関同士で診療情報を共有できる形にしていければと考えています。





健康相談は病院と住民をつなぐ大切な架け橋

## 職員一丸の第一歩は“情報開示”

**石井** 地域の期待に応え、これだけ幅広い役割を担い続けられる秘けつは？

**林田** 石井さんはどう思いますか？

**石井** ええっと……林田先生は私たち職員の一体感を大事にしていますよね。

**林田** そうですね。組織の土台は職員で、多くの職種が働く病院では、特にチームワークが大切です。そこで院長就任後に創刊した、季刊の院内報「TEAM済生」やグループウエアを通じ、全職員に病院の現状と方向性、理念や役割などを繰り返し発信してきました。済生会の役割として生活困窮者を支援する、公的病院として地域社会に貢献する、社会福祉法人として刑余者支援などを行なう——と。

**石井** 経営状況のデータも交えた具体的な院長メッセージは、わかりやすいです。

**林田** そこが大切です。経営実態も何もかも、包み隠さず見せて理解してもらう。私たちの現在地点はここで、日田病院の役割はこういうこと、それを果たすためここに向かってこうしていきましょう。みな同じ方向に向かって一丸で頑張ろう、そんなメッセージです。

**石井** 新しい取り組みを始める際、林田先生は現場でも説明してくれますよね。

**林田** 高齢化への対応で病床機能を細分化し、回復期リハビリテーション病棟や地域包括ケア病棟、緩和ケア病棟などを順次整備してきました。「なぜ、いまこうするのか」を担当部署に向いて説明します。いまま、訪問診療・訪問看護などの在宅部門を充実させるために委員会を立ち上げ、ステーション化できないか検討中です。

**石井** 林田先生はフットワークが軽いです。

**林田** いつでも動けるように、足元はいつもスニーカーですよ(笑)。それでも病院を動かす原動力は職員一人ひとりのパワーなので、とにかくみなさんにしっかり向き合うことを重視しています。

**石井** はい。

**林田** そして地域の期待に応えるためには、職員がいきいきと働ける病院づくりが大切です。アンケートで職員満足度を把握し改善につなげていて、職員の頑張りをしっかり評価する人事考課制度の見直しも進行中です。



## 救急・災害対応・ がん診療・へき地診療・そして福祉も。 地域に不可欠な役割を広く担う

**石井** 私たちも頑張りがいがあります。

**林田** 職員と触れ合うと、ヒントやアイデアをもらえます。訪問看護師や相談員は、まちに出ていろんな人と交流し、情報を持ち帰ってくる。それは「地域のためにどうすればいいのか」を教えてくれる宝物です。地域の団体や企業などと顔見知りの関係をさらに広げて、住民パワーを生かしたまちづくりに貢献できたらと考えています。

**石井** たとえばどんなことを？

**林田** 地域に潜在している貧困や格差問題を考えると子ども食堂や独居高齢者の支援など、日田でも社会福祉事業ができればいいなと思っています。住民・行政・団体・企業、そして日田病院の職員のみなさんの理解・共感を得ながら、地域の思いに応えられる病院であり続けたいです。



災害医療の強化を図る訓練。関係機関との連携は欠かせない



## 取材を終えて

林田院長は職員に対し、院内広報誌等やグループウエアを通じて、当院の現状や院長の思いをわかりやすくスピーディに伝えてくれます。当院が地域の中核病院として、これからも住民の期待に応えるために、私も職員の一員として努力していこうと思えた取材でした。(石井 玲)



2022年10月9日大分スポーツ公園大芝生広場で開催された「リレーフォーライフジャパン2022大分(以下、RFLJ大分)」に参加してきました。RFLJ大分は、がんサバイバーとご家族・友人、がん診療・療養に関わる人々が1年に1度集まり、がん診療の発展とがんの撲滅を願うチャリティーイベントです。本来なら、がんと闘う日々の連続に思いを馳せながら24時間交代で歩きリレーを繋ぐのですが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で2021年から3時間の短縮開催となっています。今年は、雨にもかかわらず、328人の参加がありました。社会環境が変化してもがん患者さんやご家族のがんと向き合う日々は続きます。1年越しに再会できたことを喜びあい、また再会できなかった方への哀悼の意を込め歩き続けるとあっという間に3時間が過ぎていました。

今後もサバイバーが決して一人ではなく様々な想いを共有する場所として、また来年も会えるように病気と戦う勇気が湧いてくる場所となる様、RFLJ大分の活動に参加していきたいと思いをします。

### エンピティテーブル

このテーブル席は「尊厳と名誉の象徴」でここに来ることができなかった方の席。テーブルに置かれたものには意味があります。

- \* 小さなテーブル: たった1人で病と闘う患者のはかなさの象徴
- \* 白いテーブルクロス: 医療従事者たちの支えの象徴
- \* 花瓶のピンクのリボン: がんの治療法開発を支えている多くの人々の襟に飾られてきたリボンを表す
- \* 一輪の赤いバラの花: 家族や友人の揺るぎない愛と病気と闘う強い決意の象徴
- \* 皿の上の一切れのレモン: 重大な病との苦しい闘いの象徴
- \* 皿の上に散りばめた塩: 数えきれない患者の苦しみの涙と愛する人を失った家族や友人が流した涙の象徴
- \* ふせたグラス: 今日この日を共に祝うことができなかった人々への追悼

### セレモニー

がんで先に旅立った方を偲ぶセレモニーで、日が暮れたころ、会場にいる皆がステージの近くに集まり、静かにテーブルを見守り、詩の朗読に耳を傾ける時間です。



エンピティテーブル



セレモニー

令和4年12月14日、院内にてやさしい日本語教室を開催いたしました。当院は、なでしこプランでおおいた国際交流プラザと連携し在留外国人への医療相談事業を行っています。事業を行う中で、在留外国人で英語がわかる人は少なく、『やさしい日本語』を使う人が多いことを知り、病院内でも活かせるように、教室を開催することとなりました。

『やさしい日本語』とは、普通の日本語よりも簡単で、外国人にもわかりやすい、また障がい者や高齢者、すべての方にわかりやすい言語です。

研修では立命館アジア太平洋大学言語教育センター准教授である布尾勝一郎先生をお招きし、やさしい日本語についてお話いただきました。講義後に実際よく用いる医療用語をやさしい日本語に訳す作業をグループワーク内で行いました。「採血」という言葉もやさしい日本語に訳すと「血を採ります。」となり、普段なじみのない言葉に、「その言い方があったか。」と目から鱗でした。

開催を通して、やさしい日本語という新たな他者とのコミュニケーションツールが増えましたが、これからも他者を思いやる心を忘れずに支援を行っていききたいと思いをします。



連携クリニック  
紹介:002

## 医療機関名 聖陵岩里病院



### ヴィーナス像について

聖陵会理事長：山田 和典先生

当院正面玄関左にあるヴィーナス（アプロディーテー）像は、故岩里正生先生が日田市内の骨董店から十数年前に購入し（価値：不明）、購入以来、旧病院救急入り口横に置かれていたものです。新病院移転に際し、正面玄関脇に置かれました。以前とは違い、とても新病院に馴染んでおり、病院の守護神として、末永く大切にしていきたいと思っております。来院された折には、是非、ご覧ください。

### 医療・介護及び社会的弱者に対する支援を通して 自分達の間人形成を図る

#### 聖陵会の基本方針

1. 必要な時に、必要な医療・介護が受けられる医療法人になろう。
2. 利用者・職員が、夢と感動を感じられる医療法人となろう。
3. 聖陵会は、お互い研磨し各個人が成長していく集団でありたい。
4. 常に地域に奉仕し、地域から必要とされる医療法人となろう。
5. 国際的視野を持って行動できる医療法人でありたい。

#### 聖陵岩里病院の役割

1. 地域の一次救急を受け入れる。
2. 地域住民のかかりつけ医の機能を有する。
3. 施設・医院などの紹介患者を受け入れる。

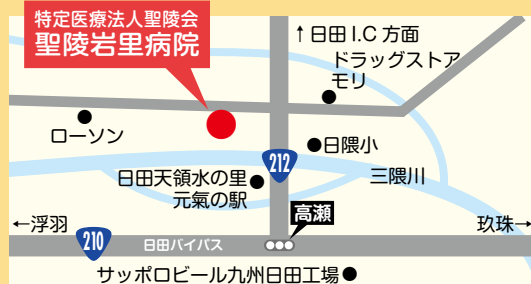
聖陵岩里病院は救急指定病院です。  
急患の場合はいつでも対応いたします。

#### 特定医療法人聖陵会 聖陵岩里病院

〒877-0073 大分県日田市大字庄手字堀ノ上242(日ノ隈町)  
TEL.0973-22-1600



● 診療時間：9時～12時 急患は24時間対応  
14時～18時 ※土曜日は17時まで



## 大分県済生会日田病院では、地域の医療機関との連携のため、 地域医療連携ネットワークを運用します。

地域医療室 E-mail renkei@saiseikai.hita.oita.jp

TEL.0973-22-8738 FAX.0973-22-8830

■ 地域医療室は、地域の医療機関との緊密な連携を確保し、診療所と病院  
あるいは病院間での機能分担や機能連携を進め、住民の皆さんが身近な地域で適切な  
医療を受け入れられるよう、効率的な医療システムの構築に努めています。  
どうぞよろしくお願いいたします。

#### ■ 医療情報連携ネットワーク「ID-Link」

(登録医療機関数 日田市19 玖珠郡4 中津市2) (令和3年度実績：191件)  
連携可能項目：処方、注射、検体検査、画像オーダー、文書・レポート類、ノート、簡易サマリ

済生会日田病院での治療経過をより詳細かつ正確に紹介先の医療機関へ伝達できるよう、  
当院では医療情報連携ネットワーク「ID-Link」を用いた医療情報を円滑かつ緊密に行っています。  
なお、ご希望の医療機関の方はお申し付けください。





## 無料又は低額診療のご案内

医療費でお困りの方は、まず、ご相談ください。

済生会日田病院は、社会福祉法人の病院として、社会福祉法第2条第3項に基づき、**経済的な理由によって、必要な医療を受ける機会が制限されることのないように**、医療費の支払いに困っている方を対象に、診療費の自己負担額を減免（無料又は低額診療事業）しています。

●受診を控えたり、受診回数を減らすことのないように、まず、ご相談ください。

医療ソーシャルワーカーが相談に応じ、所定の手続き（面談・所得の確認等）を経て、本制度の適用について決定します。プライバシーは厳守します。

- 対象者例：①市町村県民税非課税世帯の方 ②市町村県民税均等割のみ課税世帯の方  
③「限度額適用・標準負担額減額認定証」の適用を受けている方  
④「後期高齢者医療限度額適用・標準負担額減額認定証」の適用を受けている方  
⑤「就学援助制度」の認定を受けている方  
⑥低所得者等の生活困難者（世帯収入が生活保護基準の1.5倍までの者）



(例) 日田市在住、70歳、一人暮らしの場合：1ヶ月の生活保護基準の1.5倍は97,800円となります。年金収入等がそれを下回っている場合は当制度の該当となる可能性があります。

(但し、生活保護基準は家族構成等により変動します)

※上記は一例です。状況によって対象となる場合がありますので、ご相談ください。

利用方法：①から⑤に該当する方は関係機関からの証明書、認定証、通知書等をご提示してください。

⑥の方については、面談にて詳細な状況を確認いたします。

本人または成年以上のご家族等から、診療費減免申請書を提出していただきます。

院内の所定の手続きを経て、減免の可否について決定し、本人または成年以上のご家族等へ通知いたします。

※失業等により一時的に低所得となった場合やDV（配偶者からの暴力）を受け医療費の支払いが出来ない方、保険証が無い方でも外来診療費・入院診療費ともに相談に応じることが可能ですので、どうぞ遠慮なく医療相談員まで声をお掛けください。

## 令和4年度

## 下半期巡回診療事業計画のお知らせ

地区名	時間・場所	令和5年		
		1月	2月	3月
東羽田高花	高花公民館 13:45~15:15	10 (火)	14 (火)	14 (火)
		24 (火)	28 (火)	28 (火)
古 後	古後生活改善センター 13:45~15:15	17 (火)	21 (火)	22 (水)

※身体のお悩みの方は、お気軽にお申出ください。

※健康保険証、医療受給者証（または高齢受給者証）を持参してください。

※病院の窓口で現金をお支払いいただくのと同様に有料です。



社会福祉法人 済生会支部

大分県 済生会 日田病院 広報誌「なでしこ」

(巡回通信誌) 2023 新年号 [vol.02]

●誌面に関するお問合せ・情報掲載に関する

ご依頼については、[総務課内 広報誌「なでしこ」係]まで

〒877-1292 大分県日田市大字三和643番地の7

TEL 0973-24-1100 FAX 0973-22-1269